



写真6：リモートマイク(左)と中空ニードルマイク(右)

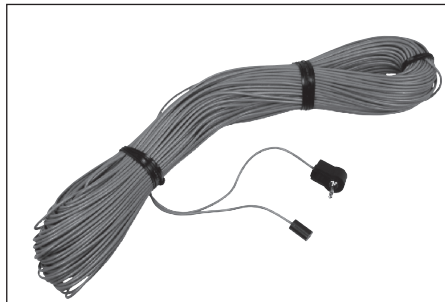


写真7：50m長リモートマイク(別売) 付属リモートマイクは25m長

の壁表面層ぎりぎりまで通す必要があります。

また、中空部分が詰まったときは、付属のクリーニング棒で内容物を押し出してください。

なお、針部分を外してもマイクとして機能します。

F-555EXに付属する25m長リモートマイクは、専用チューニングを施した高感度のコンデンサーマイクです。

マイクをあらかじめ配線しておき、必要に応じてF-555EXに接続し、音声を聴くという使い方が基本になります。壁などの障害物がないわけですから、音声のクリアなことはいうまでもありません。

このような、音声聴取用の有線マイクは、古典的な方法ですが、発見機などでは探知が不可能です。

F-555EX 付属のリモートマイクは、25m長です。3m長・10m長・25m長・50m長・100m長の種類があります。F-555 取扱店で購入できます。

コンクリートマイク

コンタクトマイクは、コンクリート剥きだしの壁で、その能力を最大限に発揮します。このためコンクリートマイクの名前が付けられています。

口から発せられた音は空気中を波として伝わります。この波は、壁や床にも伝わります。

壁の中に中空部分があると、そこで波は途絶してしまいます。ふわふわした材質も同様です。堅固な材質が連続しているのが波を伝えるには良いのです。

コンクリートの壁でも表面に繊維系材吹き付け処理がされているときは、その部分避开する必要があります。

木造住宅の壁はコンクリートマイクにとって苦手です。空間部分が多いからです。このようなときは柱や梁部分などを試してみてください。

コンタクトマイクを移動させるときは、壁からいったん離しておこなってください。押しつけたままですらと、コンタクトピンが引っかかり、マイクが破損します。保証期間内でも、これが原因の不具合は「誤った使用方法による故障」とみなされ有償となります。

F-555/F-555EXスペック

●外寸/73(85)×55×23mm(アンプ部)・φ32×27mm(シルバークンタクトマイク)1m(ケーブル)・φ1mm(長ニードル中空針部分径)×115mm・φ1mm(短ニードル中空針部分径)×58mm・1m(ニードルマイクケーブル)・φ7×12mm(リモートマイクヘッド)×25m(リモートマイクはF-555EXに付属、F-555には付属しない)●重量/171g(アンプ部アルカリ電池含む)・97g(コンタクトマイク)・11g(ニードルマイクケーブル)・2g(長ニードル)・2g(短ニードル)・138g(リモートマイク)●電源・電池寿命/006P9V電池×1・60時間(シルバークンタクトマイク使用時アルカリ9V)・55時間(ニードルマイク使用時アルカリ9V)●入出力端子/マイク入力●(シルバークンタクトマイク用・モノラルφ2.5mmミニミニジャック)・マイク入力●(ニードルマイクおよびリモートマイク用・モノラルφ2.5mmミニミニジャック・電源供給機能あり)・イヤホン出力(ステレオφ3.5mmミニミニジャック)・録音用出力(モノラルφ2.5mmミニミニジャック)●製品構成/アンプ・シルバークンタクトマイク・マイク保護板・長ニードル・短ニードル・ニードルメンテナンス棒・ニードルマイクケーブル・録音用ケーブル(モノラルミニプラグ→モノラルミニミニプラグ)・ステレオイヤホン・25mリモートマイク(F-555EXに付属)●別売オプション/リモートマイク3m・同10m・同25m・同50m・同100m

マルチ機能コンクリートマイク

F-555 基本モデル

F-555EX

基本モデル + 25mリモートマイク



F-555/F-555EXは用途にあわせて3種類のマイクを使うことができます。シルバーコンタクトマイク(写真1)、中空ニードルマイク(写真6)が付属した基本モデルがF-555、これらに25m長リモートマイク(写真7)を追加したフルセットモデルがF-555EXです。

使い方

シルバーコンタクトマイクは、ボディにステンレスを採用し、上位モデルのF-999用マイクの構造をベースにF-555用のチューニングを施した高感度マイクです。マイク入力①に接続して使用します。

中空ニードルマイクおよびリモートマイクはマイク入力②に接続します。マイク入力②は電源供給機能を持っています。マイク入力①に中空ニードルマイクを接続しても機能しません。

音声は付属イヤホンイヤホン出力(EAR)に接続して聴きます。このイヤホン出力はステレオですので、市販のφ3.5mmステレオミニプラグ付きのイヤホン、ヘッドホンも使用できます。

なお、音が外に漏れるオープンタイプを使った場合、その音をコンタクトマイクがひろい、ハウリングがおきる場合があります。これを防ぐため

写真2：トップパネル



写真1：シルバーコンタクトマイクと保護板(右)

には密閉型を使用します。

録音を行いたい場合は、付属録音コードを録音出力(REC)に接続し、録音機器のMIC入力とつないでください。付属録音コードは片側がミニミニプラグ(F-555側)、もう一方がミニプラグ(録音機器側)です(写真3)。

MDレコーダの場合、ステレオ入力为前提ですので、ミニモノラル→ミニステレオの変換プラグ(写真5)を併用します。このプラグなしでも録音はできますが、左音声のみとなります。

メモ録音用のICレコーダなどではMIC入力がミニミニジャックの場合があります。この場合両端がミニミニプラグのケーブルを用意するか、ミ



写真3：録音機材と各種プラグ

ニ→ミニミニ変換プラグと付属録音コードを併用するからです。

最近話題のPCMレコーダ(写真5)の場合もモノラル→ステレオ変換プラグを使わないと片側音声になります。

ステレオ対応にしたいときは両端にステレオミニプラグが付いた録音コードが手元があれば、イヤホン出力を利用することもできます。この場合、音声は録音機器で聞くこととなります。イヤホン出力は音量ツマミを動かすことで変化しますので、録音機器側の入力レベルと併せて調整する必要があります。

なお、内蔵のステレオマイクで録音することが前提のPCMレコーダの場合、録音モニターなしが基本(ハウリングを防ぐため)になっており、「モニターあり」に設定しないと音が聞こえません。

こういった録音ケーブル、変換プラグはレコー

写真4：電池交換



写真5：PCMレコーダ

ダを扱っている電気店で購入できます。ミニプラグ、ミニミニプラグ、ステレオかモノラルかに留意して購入します。

電源および音量調節は電源&音量ツマミです。OFF位置から時計方向に回すと電源が入り、音が大きくなります。

電池交換はフロントパネルのネジを外して行います(写真4)。使用する電池は006P9V電池1個です。電池寿命はシルバーコンタクトマイク使用時で60時間(アルカリ電池連続使用)、中空ニードルマイクで55時間(同条件)です。

マイクの使い分け

シルバーコンタクトマイクは壁面や床面に接触させ、コンタクトピンに伝わる振動をひろいあげるマイクです。接触面にはマイク保持用磁石が組み込まれています。ピンはデリケートな構造ですので、使わないときは、付属の保護板(写真1)をあてて何かにひっかかることのないようにしてください。

中空ニードルマイクは高感度コンデンサーマイクに内部が空洞の針を組み合わせたものです。長と短の2点が付属します。

針は音を導く管の動きをし、コンタクトマイクのコンタクトピンのように、この針が直接音をひろうわけではありません。マイクを動作させるのは、針中空部の空気です。

壁状の部分に中空ニードルマイクを使用する場合、針が壁の中に埋め込まれている状態では効力を発揮できません。壁を貫通するか、目的する部屋側